

教科名	科目名	単位数	担当者	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
商業	簿記	通年4	奈須義則	12	12	8

◇科目の目標

企業における取引の記録・計算・整理に関する知識と技術を修得させ、簿記の基本的な仕組みについて理解するとともに、ビジネスの諸活動を計数的に把握する能力と態度を育てる。

◇科目の概要

企業における取引の記録・計算・整理に関する知識と技術、簿記の基本的な仕組みについて学習する。希望者は簿記検定に挑戦することができる。

◇学習の進め方

レポート・問題集を中心に簿記の基礎を学習する。

◇履修にあたっての留意点

教科書・問題集で予習をし、面接に出席するよう心がける。
すべての面接に出席しないと単位修得が難しい。

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授 業 内 容	教科書 ページ
1	4 / 24、25	NO.1	簿記の基礎、資産・負債・資本と貸借対照表	P8～P22
2	5 / 15、16	NO.2	収益・費用と損益計算書	P23～P27
3	5 / 22、23	NO.3	取引と勘定、仕訳と転記	P28～P42
4	6 / 26、27	NO.4	仕訳帳と総勘定元帳	P43～P50
5	7 / 10、11	NO.5	試算表、精算表	P51～P61
6	7 / 24、25	NO.6	決算 現金・預金などの取引	P62～P95
7	10 / 9、10	NO.7	3分法 仕入帳、売上帳	P96～P101
8	10 / 30、31	NO.8	商品有高帳 商品売買損益の計算	P101～P108
9	11 / 13、14	NO.9	掛け取引	P109～P116
10	12 / 11、12	NO.10	手形の取引 有価証券の取引、その他の債権債務	P117～P140
11	12 / 25、26	NO.11	その他の債権債務 固定資産 個人企業の資本と税金	P140～P166
12	1 / 15、16	NO.12	決算整理、8桁精算表、帳簿決算と財務諸表	P167～P194

◇テスト範囲

前期末	レポート No. 1～No. 6	後期末	レポート No. 7～No. 12
-----	---------------------	-----	----------------------

◇成績評価の方法

テストを中心として、レポートの評価、出席状況を加味し、総合的に評価する。

教科名	科目名	単位数	担当者	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
商業	ビジネス基礎	後期2	奈須義則	6	6	4

◇科目の目標

ビジネスに関する基礎的な知識と技術を習得し、経済社会の一員としての心構えを身につけ、ビジネスの諸活動に対応する能力をつける。

◇科目の概要

ビジネスと売買取引・経済と流通・企業活動との関わりの基礎を学ぶ。

◇学習の進め方

教科書をよく読めばレポートの答えが見つかります。教科書の「さくいん」を利用して重要用語を理解しましょう。

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポート番号	面接内容	教科書ページ
1	10/16, 17	NO. 1	経済と流通の基礎（経済の仕組み・経済活動と流通）	P23～P58
2	10/23, 24	NO. 2	ビジネスの担い手（生産者・小売業者・卸売業者）	P59～P80
3	11/13, 14	NO. 3	ビジネスの担い手（物流業者・金融業者・情報通信業者）	P81～P98
4	12/18, 19	NO. 4	企業活動の基礎（資金調達・税・雇用・企業倫理）	P100～P128
5	12/25, 26	NO. 5	ビジネスと売買取引（手順・代金決済）売買に関する計算	P129～P159
6	1/8, 9	NO. 6	ビジネスとコミュニケーション（ビジネスマナー・情報の入手と活用）	P160～P199

◇テスト範囲

前期中間	レポート No. 1～No. 3	前期期末	レポート No. 4～No. 6
------	---------------------	------	---------------------

◇成績評価の方法

テストを中心にレポートの作成状況及び面接出席回数を加味し、総合的に評価する。

教科名	科目名	単位数	担当者	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
商業	情報処理	前期2	奈須義則	6	6	5

◇科目の目標

ビジネスに関する情報を収集・処理・分析する知識と技術を習得する。ビジネスの諸活動において情報を活用する能力をつける。

◇科目の概要

情報の収集・処理・分析について教科書で学習する。また各種アプリケーションソフトを用いて、パソコンで情報を活用する実習を行なう。

◇学習の進め方

教科書を参考にレポートを作成する。実習課題はパソコンを使用して作成する。
実習課題は面接出席時に作成する。

◇スクーリング計画

回数	開講 月日	レポ ー ト 番 号	面 接 内 容	教科書 ページ
1	5/1, 2 または 5/22, 23	No. 1 No. 2	ワープロソフトウェアによるビジネス文書の作成、図形の入った文書の作成。 実習課題①②（別プリント）	教科書 P-1～27 教科書 P-28～48
2	5/29, 30 または 6/26, 27	No. 3 No. 4	表計算ソフトウェアによるグラフの入ったビジネス文書の作成。 実習課題③④（別プリント）	教科書 P-49～82 教科書 P-83～166
3	7/3, 4 または 7/17, 18	No. 5 No. 6	プレゼンテーションソフトウェアによるプレゼンテーション資料の作成。 実習課題⑤⑥（別プリント）	教科書 P-167～238 教科書 P-239～267

◇テスト範囲

レポートNO. 1～NO. 6の内容から、期末試験のみ行なう。

◇成績評価の方法

テスト、レポートの評価、実習課題、面接出席回数により総合的に評価する。